

教職課程の学生による「高校生対象中国語講座」の 取り組み

著者	植村 麻紀子
雑誌名	言語メディア教育研究センター年報
号	2018
ページ	49-59
発行年	2019-07-16
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00001713/

教職課程の学生による「高校生対象中国語講座」の取り組み

植村麻紀子
(神田外語大学)

1. はじめに

2016年より、「中国語科教育法」履修中の3年生による高校生対象中国語講座を年に1、2回行なっている。4回目となる2018年度は、見学のご家族もあわせて2コマで計30名の参加があり、過去最高となった。「高校生対象」と銘打ってはいるが、「ご家族やお友達も一緒に中国語を勉強してみませんか」と広報しているので、毎回付き添いの保護者や小・中学生も高校生達に混じって楽しく勉強してくださっている。「世代を超えて誰もが一緒に中国語学習を楽しめる場を作りたい」という筆者の個人的な思いもあり、オープンキャンパス等で大学に見学にみえる方だけを対象にするのではなく、参加者の交通の便を考慮し、神田外語学院をお借りして行なった回もある。

本稿では、これまでの活動内容についてまとめ、今後の課題を明らかにしたい。参加者の感想を記録として残し、授業を担当した学生の学びについても報告する。

2. プロジェクトの背景

本講座は、夏のオープンキャンパスや冬の大学説明会の一角をお借りしておこなっているが、広報部からの依頼ではなく、筆者の持ち込み企画である。教科教育法の授業内で模擬授業を何度か経験し、4年生になれば教育実習にも行く学生達になぜこのような活動をさせているのか。理由はいくつかある。

第一に「リアルな学び」をデザインするためである。中国語科教育法を履修し、中国語の教員免許取得を目指す学生は例年2名前後、この10年間で多い年でも5名であった。1人ずつ交替で教師役を務め、15～20分ずつ年に数回模擬授業をするが（最終的には1人50分、実際と同じ長さも経験）、生徒役が少なく、また実際の高校生とは違って中国語がある程度できる同級生相手の授業になる。本物の高校生に教え、その反応を体験し、リアリティを高めることで、教育実習に向けて改善点を明らかにし、モチベーションアップを図る。

第二に、英語で実習にいく学生にも、中国語を教える機会を創出するためである。これまで教員採用試験が「中国語」で実施されたのは大阪府のみであり(2009年より実施)、また毎年採用があるとは限らない。文部科学省の高等学校学習指導要領でも、「外国語」は実質「英語」についての記述であり¹⁾、中国語の専任教諭としての採用はほとんどないのが現状である。ゆえに、中国語専攻の学生に対しては、「英語」と「中国語」のダブル免許取得を勧めている。教育実習はどちらか一科目でおこなえばよいので、学内で定める一定の基準を超えれば、中国語専攻の学生も母校の高校や中学校に「英語」で実習に行く。つまり、中国語を教えることを学んでも実習する場がないまま、中国語の教員免許を取得することになる。よって、一度でも実践の場を設けたい。

第三に、実習校のテキストや教え方を意識せず、学生自らオリジナルの授業設計ができるようにするためである。中国語科教育法の授業では、筆者もその作成に関わっ

¹ 英語以外の外国語は、「その他の外国語に関する科目」としてまとめられ、「英語に関する各科目の目標及び内容等に準じて行うものとする。高等学校において英語以外の外国語を初めて履修させる場合には、生徒の学習負担等を踏まえ、適切に指導するものとする。」との記述があるのみである。

た、(財)国際文化フォーラム編 2012『外国語学習のめやす：高等学校の中国語と韓国朝鮮語教育からの提言』の教育理念や枠組みをもとに、ニーズやレディネスを把握し、目標からのバックワードデザインで学習項目や学習活動を考える授業設計を教えている。しかし、教育実習では、実習校で使用されている教材を用い、普段のルーティンをふまえた授業をせざるをえない。授業を受ける生徒にとって、実習も通常授業の一部であるからだ。そこで、この講座では、目標設定から学習内容、教材作成にいたるまで、すべてを学生に委ね、逆向き設計によるタスクベースの学習活動を試みる場としている。

以上のような企画趣旨を教科教育法の履修者に説明し、学生募集のための大学主導のプロジェクトではなく、あくまでも授業の課外活動として行うボランティア活動であることを確認した上で、実施希望の有無を学生に問い、広報部と相談しながら実施日を決定している。学生自身が Web チラシを作り、(公財)国際文化フォーラムや筆者個人の Facebook ページ、本学の HP 等で広報していることもあり、本学への進学を考えている高校生だけではなく、祖父母が中国人の小学生とその友達、中国語に興味がある高校生、学校見学に来た高校生とその保護者・兄弟などの参加も歓迎してきた。これまでの最年少は小学 2 年生(7 歳)である。また、毎年 11 月に行われる高等学校中国語教育研究会関東支部主催の「高校生中国語発表大会」に赴き、学生が作った案内チラシを配布させていただいている。

3. 活動内容

これまで 4 回の講座の概要を以下、表にまとめる。第 3 回(2017 年)からは、12 月の大学説明会の一企画として大学 HP 上で広報していただき、事前申し込み制にしているため(ただし、定員が埋まっていないクラスは当日の飛び込み参加も可)、参加者氏名の中国語読みを事前に調べ、名前カードを作っておき、自己紹介活動が以前よりスムーズにできるようになった。

回	日時	場所	担当学生数	参加者数
第 1 回	2016 年 8 月 2 日 ①12:30～13:20 ②13:30～14:20 (50 分授業 ①②は同内容)	神田外語大学 4-102 教室	中国語専攻 3 年生 3 名 + IC 学科中国人留学生 3 年生 3 名	①14 名 ② 2 名 計 16 名 (保護者・兄弟 4 名含む)
第 2 回	2016 年 12 月 17 日 ①9:30～10:10 ②10:25～11:05 (40 分授業 ①②は別内容)	神田外語学院本館 1F アセンブリーホール	中国語専攻 3 年生 2 名	7 名 (小学 4 年生 2 名とその保護者 1 名含む)
第 3 回	2017 年 12 月 17 日 13:00～13:50 (50 分授業)	神田外語大学 4-306 教室	中国語専攻 3 年生 2 名	14 名 (保護者 3 名含む)

第4回	2018年12月16日 ①12:40～13:30 ②13:40～14:30 (50分授業 ①②は同内容)	神田外語大学1-114教室	中国語専攻3年生2名(内1名は聴講生) + ボランティアの1年生	①9名(小学2年生とその保護者1名含む) ②21名 計30名(保護者・兄弟9名含む)
-----	--	---------------	----------------------------------	--

各回のテーマと内容、教具は以下の通りである。

回	テーマ	内容	用意したもの
第1回	自己紹介ができるようになろう～中国人の一生の友達を作るための第一歩～	<ul style="list-style-type: none"> 中国語の特徴と母語話者数等について簡単に説明 自己紹介の練習をし、実際に中国人留学生と話す 	<ul style="list-style-type: none"> 中国語の文字と発音、母語話者数等について説明するスライド 自己紹介会話のプリント 中国のお菓子(麻花、パンダチョコレート)
第2回	中国語でメッセージカードを作ってみよう！	<ul style="list-style-type: none"> 中国の旧正月の過ごし方、縁起の良い食べ物や数字、年賀状の常用フレーズを学習 実際に年賀状を作成 	<ul style="list-style-type: none"> 春節、爆竹、「倒福²」についての写真+説明をまとめたPowerPoint 中国に関する基礎知識をまとめた書き込み式のプリント 外来語クイズ(書き込み式のプリント) 年賀状作成用の紙とペン 中国の年賀状(お土産用)
第3回	中国語を楽しく学ぼう講座♪	<ul style="list-style-type: none"> 中国語の文字と音声について簡単に説明 中国文化クイズ 自己紹介の練習 	<ul style="list-style-type: none"> 中国語に関する基礎知識をまとめた書き込み式のプリント 参加生徒の名前を書いたカード(大きな付箋紙) 中国文化のクイズのスライド(PowerPointで作成) 自己紹介会話プリント

² 「倒福」とは、春節(旧正月)に家の扉などに貼られる「福」の字を上下逆さまにした赤い紙。「倒福 dào fú」(福を逆さにする)と「到福 dào fú」(福が到来する)が同じ発音になることから。

第4回	中国語って面白い～みんなでチャイ活！	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中華料理クイズ ・ 中国語で自己紹介をしてみよう ・ 「夢と魔法の王国へ」クイズ（ディズニーランドのアトラクションやミッキーマウスの中国語表記） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中華料理のクイズ（ロイロノート・スクールアプリで作成） ・ 簡体字と繁体字、ピンインと注音字母、声調を説明するプリント ・ 自己紹介会話プリント ・ ディズニーランドの簡体字版マップとクイズ（PowerPointで作成） ・ 参加生徒の苗字を書いたカード（大きな付箋紙）
-----	--------------------	--	---

4. 参加者のコメント

各回の参加者には無記名で感想を寄せていただいている（2回目より学年記入欄あり。記入は自由）。以下にその一部を紹介する。中国語を学ぶ楽しさや難しさ、中国や中国語への興味・関心を喚起しただけでなく、対中イメージの改善、文化への気づきもあった。また、現在中国語学習に取り組む高校生のモチベーションアップにもつながっている。

回	参加者の感想コメント（一部抜粋）
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語にはない発音で難しいですね。やさしく教えて頂いて楽しかったです。覚えるには時間がかかりそうですが、勉強してみたいと思いました。 ・ 楽しく中国語を勉強できてよかったです。今度中国の友だちに言ってみたくと思います。 ・ 留学生と話ができて楽しかった。言語を学ぶのは楽しいことだと改めて感じました。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国の風習や文化など学校で習っていないことを学べてよかったです。楽しく参加できました。中国語頑張ります！（高校2年） ・ 中国は料理とかは好きだけど、文化はあまり知りませんでした。今回の講座で中国文化の面白さを知れて、中国へのイメージが少し変わりました。中国＝悪いと決めつけるのではなく、もっと中国のことを知って、理解を深めていきたいです。（高校2年） ・ 今日は楽しい講義をありがとうございました！初めて知ることが多く、貴重な時間になりました。中国語を本気でしゃべれるようになりたいので、これからも勉強頑張ります。（高校2年・既習） ・ 中国語の発音は難しいと思っていましたが、日本語の発音と似ている部分があるなど今日のお話を聞いて思いました。日本と中国は隣同士ですが、お正月の祝い方や年賀状など文化が違う部分もたくさんあるのだなと思いました。（高校2年・既習） ・ 友達もいたから、いっしょに考えることができて、とても楽しかったです。大学生のお姉さん達がとても中国語がうまかったです。中国のでんとう、中国語の言葉などがよくわかりました。（小学4年） ・ 中国語の発音や文字を勉強するのは初めてでしたが、自分で手紙が書けるようになったり、少ししゃべれるようになって、うれしかったです。ま

	た、きかいがあったら勉強してみたいです。（小学4年）
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの字でも発音がたくさんあって難しかったです。でも少しだけ自己紹介ができたり、クイズも楽しかったです。もっと話せるようになりたいと思いました。（高校3年） ・中国について少し知れた。教え方はわかりやすかったです。（高校3年） ・中国語に興味を持つことができました。同じ字でも声調で意味が変わるなんて知らなかったのもっと勉強してみたいと思いました。とても楽しく学べたのでよかったです。（高校3年） ・ピンインは見たことがあるが、声調記号の意味がわかって面白かった。第2声の発音が自分には難しいと感じた。（高校2年） ・すごくわかりやすい授業で楽しかったです！声調がなかなかできるようにならないので、なにかいい方法があったら教えてほしいです。（高校2年・既習） ・とてもおもしろかったです。中国語を教えていただいたのは今回が初めてで、勉強して中国語がわかるようになったら楽しいだろうなと思いました。（高校1年） ・中国について勉強して、なんとなくイメージ通りだなあとと思いました。中国語もとても面白くてよかったと思いました。家に帰ったらもっと勉強したいと思います。（高校2年） ・クイズでは中国のことを楽しく知れてとても面白かったです。自己紹介は発音が難しかったけど、たのしかったです。（中学3年） ・発表してくださった学生さんが楽しそうだったので、楽しく学ばれていることが伝わりました。自己紹介の練習もできて、実際に授業に参加できている感じがしました。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ言葉でも違う発音で難しかった（引用者注：「マ」を4つの声調でいう練習について）。すごく奥が深くて、楽しい時間をすごせた。（高校3年） ・自分の名前の発音が日本語と全然違ってびっくりしました。とても楽しかったです。（高校2年） ・アルファベットから、それをヒントに発音を覚えられると分かったので、もっと学びたいと思いました。四声を使い分けるのが難しいと思いました。漢字から想像できて楽しかったです。（高校2年） ・中国語講座に参加して、中国語を勉強したいと強く思いました。今日は大学生の方が丁寧に教えてくださり、楽しかったです。（高校3年） ・千葉ならではの問題や、今回初めて中国語を学んだのに、最後には理解することができ、今回うけることができて本当に良かった。教え方も上手だった。（高校2年） ・発音は難しいけどかわいくてもっと学んでみたいと感じました。（高校2年） ・テンポよく企画が進んでいってとてもよかったです。グループ形式が楽しかった。（高校3年） ・ディズニーのクイズがすごく楽しかった。自分の名前がけっこう簡単だった。中国語をやってみたいと思った。（高校2年） ・クイズが楽しかった！高校の授業でも中国語をやっているので頑張ろう

	<p>と思います！大学も県内だったらココに来て中国語を専攻したいと思います。（高校 2 年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国語が話せるようになったら色々な所で役に立つと思うので勉強をもっとしたいと思いました！（高校 2 年） ・来年度から高校で中国語を習うので、少し予習になりました。英語より口の動かし方の種類が多い気がしました。勉強になりました。（高校 1 年） ・初めて会った人とも楽しくできたので良かったです。（高校 1 年） <p>・短い時間でしたが、中国語の特徴や自己紹介までできて、とても良かったです。クイズなども取り入れていたので、楽しく学べました。自己紹介の文がなかなか覚えられず、苦労しました。（保護者）</p> <p>・おもしろかったです。（小学 2 年）</p>
--	--

上に引用しなかったコメントもふくめて、全 4 回すべてのコメントを内容ごとに整理すると、以下ようになる（1 人のコメントに違う内容が書かれている場合、複数カウント）。一時的な楽しさだけでなく、さらなる学習意欲を喚起できる内容であったことが見てとれる。

また、教職を目指す学生が担当している講座であることを参加者もわかっているの、教え方についてのコメントや授業の内容、流れについてのコメントもそれなりにあった。良い評価を頂けたことが、授業を担当した学生達の励みにもなったようである。

楽しかった/面白かった（「クイズが楽しかった」も含む）	29
もっと勉強してみたい/大学で専攻したい/話せるようになりたい	16
発音が難しかった	10
教え方が上手/丁寧/優しい/企画がスムーズ	9
新しいことが知れた（中国語や中国の文化・風習等）/勉強になった	8
以前より興味が持てた	4
中国や中国語のイメージが変わった/身近に感じた	2
少ししゃべれるようになって、うれしかった	1
中国語が好き	1
その他（高校でこれからやるので予習になった/ビックリした）	2

4. 担当した学生の学び

この講座の最大の目的は、冒頭にも述べたように、教職課程の学生が授業で学んだことを活用して、授業案・教材を作り、授業を行い、振り返り、次への学びにつなげるという Plan-Do-See のサイクルを教育実習に行く前に一度体験することである。実際に担当した学生の声を以下にまとめる。なお、これまで 3 年間に担当した合計 9 名の学生のうち、2 名が教員採用試験に合格した（高校・英語／中学・英語）。教育実習にいく半年前に、本物の高校生に教えるというリアルな学びを体験したことは、彼らのモチベーションアップにつながり、その後の学習方法や学習内容に示唆を与えるものとなったことが見て取れる。

回	担当学生の感想コメント
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思っていたよりも高校生の反応がよくてほっとした。1回目は時間いっぱいでしたが、2回目は時間が余ってしまったので、次はさまざまなパターンを考えて構成したい。 ・ 最初はとても緊張した。お客さんが大きな声だったり、笑顔になっているのを見たりできたのがいい経験だった。 ・ 高校生の感想を見ると皆楽しかったとか面白かったとか書いてくれたし、これを機に中国語を学びたいと思ってくれた人が多く嬉しい。この企画に参加してよかった。自分の励みになった。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ いい経験になった。 ・ もっと勉強しなくてはと感じた。 ・ 楽しんでもらえたのがうれしい。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がよかれと思って組んだものが、必ずしも生徒の好みに合うとは限らないのではないかと感じています（生徒さんの表情が少し堅かった&クイズもみんなあまりひっかからなかった）。そして、皆、中国語の発音が難しいと口にしていましたが、どうやって初めての子達に中国語の発音などの基礎を教えるかは本当に大事なのだろうなと学びました。出来るようになった子達は本当にうれしそうだったので、それを励みにもっと指導力を向上させていきたいと思います。 ・ ほとんどが初心者だったので、とにかく中国語と中国について印象が残る授業がしたいと思っていて、それが実現できたと思う。やはり発音に関しては、あの短時間で習得するのは無理なので、雰囲気だけでもつかんでもらえたら嬉しい。授業内でのふるまいや生徒に関わっていく姿勢については要改善だと思った。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の模擬授業では実際の高校生を相手に展開することはできないので、実習前にこのような機会をいただけて勉強になりました。中国語を勉強したことがある人、はじめて勉強する人、いつもニコニコしている人、人見知りをする人...など、いろいろな生徒がいる中で、誰にとっても分かりやすく楽しい授業を作るのは難しいですが、今までとは違う視点で考えることができそうです。たくさんの参加者の方に楽しかった！と言ってもらって嬉しかったです。 ・ 準備まですごく大変でした。リハーサルまでボロボロで、ギリギリまでどうなるかわかりませんでした。教える・授業を進めるということは初めての経験でしたがすごくためになりました。 ・ 私はお手伝いとしてやらせていただきました。初めは高校生の相手をしっかりできるか不安な面も少しありましたが、教職の先輩方が場を盛り上げてくださったので楽しく安心して高校生と授業をやれたと思います。自分も高校生の頃、体験会に足を運んだこともあったので、懐かしさも少し感じました。先輩方は授業の進行や教え方もかなり上手かったので尊敬しました。また、時間制限もあるので、スピードも大切だということもすごく実感しました。ボランティアという立場でしたがよい時間が過ごせました。

5. まとめと今後の課題

この講座を企画し、指導してきた筆者自身が感じていること、今後の課題について、最後にまとめておきたい。

学生は上記のように、高校生が興味・関心を持ちそうなテーマや内容を考え、毎回主体的に取り組んでいる。語学の授業だけではなく、文化や社会に関する授業で学んだことも活用して、内容を豊かにするだけではなく、それをクイズや年賀状作成という形で、楽しく学べるよう工夫を凝らしている。筆者は適宜アドバイスはするが、基本的には受講生 2、3 名で協力して授業を作り上げることができており、当日も設営準備を手伝う程度である。彼らが緊張しつつも、熱心に語る姿、高校生に伝わった喜びを感じている姿を目にできることは、教員としてとても幸せな時間である。

しかし、彼らの授業を教室の後ろから見てみると、指導や練習が足りなかったと感じることも少なくない。授業内で何回かおこなう模擬授業を通して、授業設計や教材作成の力は着実に伸びているが、中国語の基礎知識や発音等、教師が持っているべき最低限の知識や能力において、まだ不十分であると感じることが多い。発音に関しては、一朝一夕に身につくものではないので、教育実習に行くまでに MULC でネイティブ教員の個人指導を定期的に受けること、基礎知識についても、教科教育法の授業内での学習では限界があるので、文法書を読み込んだり、各種検定試験に挑戦するなどして、確かな力をつけるよう指導を重ねたい。

もう一つの課題は参加者の確保である。大学のホームページや各種 SNS での発信、関東地区高校生中国語発表大会でのチラシ配布など、広報活動にも努めてきたが、定員の 20 名が埋まらないことが多い。担当する学生にとっては、参加者が少ない方が授業運営はしやすい。しかし、教育実習や、免許取得後、実際に教壇に立った時に教室にいるであろう生徒の数を考えると、やはりもう少し多くの参加者の前で授業をする経験をさせることができると感じている。

6. おわりに

筆者自身が大学 4 年次に高校へ中国語の教育実習に行った時に受けた指導の中で、忘れられない言葉が 2 つある。一つは「生徒にお土産を持って帰らせる授業」、もう一つは「生徒とキャッチボールをする授業」である。「お土産」とは何か形として渡すものではなく、この授業を受けて何を学んだのか、何ができるようになったのかを明確にできる授業のことである。学習者と教師、あるいは学習者同士のキャッチボールを通して、教室がコミュニケーションの場そのものとなり、コミュニケーション活動を通してコミュニケーション能力を養成できるような授業デザインを今後も学生とともに考えていきたい。

『書経・説命下』には「教学半（教うるは学ぶの半ば）」ということばがある。人にものを教えるためには自分も勉強しなければならない。だから教えるということは、半分は自分も学ぶことになるということである。教職を目指す学生とともに、教えることを通して学んでいきたい。

参考資料 1 (2016 年の学生 K/I/M の 3 名が実際に作った授業案)

第 1 回 2016 年 8 月 2 日 (火) キャンパス見学会 4-102 にて (30 人教室)

教職課程の学生による中国語スペシャルレッスン

第 1 時限 12 : 30 ~ 13 : 20

第 2 時限 13 : 30 ~ 14 : 20

テーマ

自己紹介ができるようになる～中国人の一生の友達を作るための第一歩～

目的

外国語を使用して外国の人々とコミュニケーションが取れるようにする。

目標

- 1 中国について知ることができる。
- 2 自分の名前を中国語で言い、自己紹介ができるようになる。
- 3 ネイティブと少しでも意思疎通が図れるようになる。

学習項目

- 1 中国とはどんな国で、中国語とはどんな言語か。
- 2 中国語で簡単な自己紹介をする。

流れ・展開

時間 (分)	教師の活動	予想される生徒の反応	支援・評価
3 分	(あいさつ) 一人ずつ中国語と日本語で自己紹介を含めてあいさつをする。	全体 ; 拍手	授業プリントを配布
5 分	中国語について 担当 : K 中国語とはどんな言語か、知っていることはないか質問する。 中国語の母語話者の数について説明する。 中国語が話されている地域について説明する。	生徒 1 : 中国で話されている言葉 生徒 2 : イントネーションが独特	スライドに中国語が話されている地域の分布図を表示

自己紹介カード

Nǐ hǎo.

A: 你好。(こんにちは。)

Nǐ hǎo.

B: 你好。(こんにちは。)

Wǒ xìng . Nín guìxìng ?

A: 我 姓 。您 贵 姓？

(わたしは_____です。あなたのお名前 (苗字) は？)

Wǒ xìng Qǐng duō guānzhào.

B: 我 姓 。请多关照！

(わたしは_____です。よろしくお願いします。)